

2009年6月

根津美術館

NEZUMUSEUM



## 東洋の美と伝統を次世代に伝えるために —— 「根津美術館」 10月7日オープン ——

2006年より3年半改築のため休館しておりました根津美術館(館長:根津公一)は、南青山の新しい文化拠点として東洋の優れた美術を次世代に伝えることを目指し、2009年10月7日(水)新創開館いたします。

根津美術館は、実業家にして美術品収集家でもあった初代根津嘉一郎の遺志により、コレクションを一般に公開するために、昭和16年(1941)、南青山の根津家敷地内に開館しました。それから約70年にわたり、日本、中国、朝鮮を中心とする東洋のすぐれた美術を展示する美術館として、また広大な日本庭園を有する都会のオアシスとして、多くの人々に親しまれ、国の内外から高い評価を得てまいりました。「那智瀧図」なちのたみず、「燕子花図屏風」かきつばたずなどの国宝7件、重要文化財87件を含む約7千件の古美術品を所蔵しております。

新しい根津美術館は、隈研吾氏による建築と、ドイツ人デザイナー、ペーター・シュミット氏によるロゴマークに象徴されるように、伝統と現代性の調和を実現した美術館となります。展示面積は改築前の約1.6倍に広がり、先端技術を駆使した展示装置や照明は、作品をじっくりご鑑賞いただける最上の空間をつくりだしました。開館から1年間は、8回にわたる新創記念特別展を開催し、コレクションを代表する優品の数々をご覧ください。そのオープンニングとなる第1部は、その名も「新・根津美術館展」と題して、2009年10月7日(水)から11月8日(日)まで開催し、国宝「那智瀧図」を中心に構成します。オリジナル商品をとり揃えたミュージアムショップ、歩きやすく整備された庭園、その緑の中に新しくオープンするNEZUCAFÉなど、根津美術館は、来館される方々に美術や自然に身をゆだねる充実した時空間を提案します。

「今回の新創事業は、安全かつ最適な環境で作品を保存するために、収蔵施設を改めることからスタートしました。展示・保存・環境の課題に対するさまざまな工夫の成果としての新しい根津美術館が、今日の美術館のありかたを考えるうえでの、ひとつの指標となれば幸いです」と、館長根津公一は語ります。

青山の地より世界へ—— 新・根津美術館は、これまで以上に活発な展示・普及活動を展開します。

## 都心の喧騒から静寂な美の空間へ 本館建築

### 建築家 隈 研吾のコンセプト

表参道からみゆき通りを歩いてきた来館者は、なによりまず、美術館の前面を覆う、緑鮮やかな竹林の景色に驚くのではないのでしょうか。「表参道から美術館に至るシークエンスは茶室の露地であり、都市の喧騒から静寂なアートの空間へと人々をカームダウンする大事な空間なのです」と、建築家隈研吾氏は語ります。そして、新しい根津美術館の施設は、「都市の商業空間と森の間に、ゆるやかな勾配の屋根が生み出す影によって、周囲の環境となだらかにつなげること」をコンセプトとしています。低く抑えた大屋根は、建物の内外に使われた竹素材と調和し、広いガラスを通して庭園の景観をとりこんでいます。室内の透明性、自然素材の探求、日本の伝統の再生という3つのテーマを20年間にわたって追及してきた隈氏にとって、根津美術館はその集大成になったといえます。

開放的なロビーと各ギャラリーとを結ぶゆるやかな導線、庭園や茶室へといざなう開放的な雰囲気は、まさに根津美術館にふさわしい機能性をかたちにしたものといえます。創立以来南青山の文化の発信地であり続けた根津美術館は、伝統と現代性を融合させたこの新たな施設を得たことで、ハイセンスな都市空間の中にあらためてその存在を広くアピールします。



根津美術館 外観パース



根津美術館 館内パース

### 隈 研吾 KUMA, Kengo 略歴

1954年横浜生まれ。1979年東京大学建築学科大学院修了。1990年より隈研吾建築都市設計事務所主宰。自然と技術と人間との新しい関係を切り開く建築を提案。主な作品に「那珂川町馬頭広重美術館」（2002年）、「長崎県美術館」（2005年）、「サントリー美術館」（2007年）などがあり、国内外で高い評価を受ける。2009年より東京大学教授。

### 展示室——作品にも鑑賞者にもやさしい環境

各展示室は、企画展示にはじまり、書画・彫刻・青銅器・工芸・茶道具といったそれぞれのジャンルの作品、そのひとつひとつを美しく見せることを可能にしました。作品にあてる光は、作品への影響を極力抑える必要があることから、熱の放射が少なく、また光の色を太陽光から和ろうそくの灯まで自在に再現することのできるLED（発光ダイオード）ライトを約8万個使用しています。展示ケースの細部に至るまで、館員の意見やアイデアを反映させ、その結果、作品にも、来館者にもやさしい、理想的な鑑賞空間をつくりだしました。ガラス越しとは思えないほど、身近に作品の存在を感じることで、できるギャラリーが誕生します。

## 施設概要

・敷地面積	約21,625㎡	
・本館	—設計管理	隈研吾建築都市設計事務所
	—施工	清水建設株式会社
	—建物構造	地上2階、地下1階
	—延床面積	約4,014㎡
	—展示室面積	約1,288㎡
	—ミュージアムショップ面積	約57㎡
・NEZUCAFÉ面積	約168㎡	

## 施設構成

・本館	1階	ホール 展示室1〈企画展示〉、展示室2〈書画〉、展示室3〈彫刻〉 ミュージアムショップ
	2階	展示室4〈青銅器〉、展示室5〈工芸〉、展示室6〈茶道具〉
	地下1階	講堂
・庭園	NEZUCAFÉ <small>こうにんてい いかるがあん かんちゅうあん いちじゅあん</small> 茶室(弘仁亭、斑鳩庵、閑中庵、一樹庵)	

## 施設案内

・住所	〒107-0062 東京都港区南青山6丁目5番1号
・電話番号	03-3400-2536
・アクセス	地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線「表参道」駅下車 A5出口より徒歩8分、B3出口(エレベーター)より徒歩10分
・ホームページ	<a href="http://www.nezu-muse.or.jp">http://www.nezu-muse.or.jp</a>

## ロゴマーク

ドイツを代表するデザイナー、ペーター・シュミット氏は、根津美術館の構想や隈研吾氏による建築デザインに共鳴し、それを象徴するロゴマークを生み出しました。中国漢代の碑文から採字した漢字に、黒と金でNEZUMUSEUMの頭文字NとMの意匠を組み合わせています。この新しいロゴマークには、根津美術館が所蔵する名品「燕子花図」をはじめとする屏風のかたちや、竹林に抱かれた新しい美術館のイメージが重ねられています。



ペーター・シュミット SCHMIDT, Peter 略歴

1937年ドイツ生まれ。ジル・サンダーやヒューゴ・ボスなど世界的なファッションブランドのロゴや、ハンブルグ市、ドイツ国軍のCI(コーポレート・アイデンティティ)、雑誌のアートディレクションなどを手がける、ドイツを代表するデザイナー。2000年、社会貢献の功績を讃えられドイツ連邦十字勲章を受章。現在はその活動領域を広げ、バレエやオペラの総合演出も行っている。

伝統とモダンを融合した独創的アイテム

## ミュージアムショップ

収蔵作品のモチーフをあしらった絵葉書やステーションナリー、伝統の染織技術を現代風にアレンジしたハイセンスな限定品など、青山というトレンドの発信地にふさわしい、洗練されたオリジナル新商品をとり揃えました。2倍以上に広がった新しいミュージアムショップは、展覧会の趣旨に合わせ、店内のディスプレイや商品をフレキシブルに変えることで、いつおいでいただいてもお楽しみいただけるショップに生まれかわります。

旧根津邸の庭園を散策する楽しみ

## 庭園

根津美術館のもうひとつの魅力、それは青山という都心にありながら、2万㎡を越す広大な敷地を有し、そこに緑豊かな日本庭園が広がっていることです。初代根津嘉一郎の旧邸であった園内には、池に臨んで弘仁亭、斑鳩庵、閑中庵、一樹庵の4つの茶室が静かなたたずまいをみせます。



庭園を散策する来館者を楽しませるのは、園内に散在する150点を超える石造彫刻です。初代根津嘉一郎の時代から集められたコレクションには、鎌倉時代の石仏や灯籠、中国・明時代のブロンズ像、また韓国・朝鮮時代の石塔や灯籠などがあります。移り行く自然の中で、ひっそりと立つ道祖神、風情のある灯籠、苔に彩られたつくばいを訪ね歩く楽しみは、根津美術館ならではの楽しみです。

毎年4月末～5月上旬にかけて、根津美術館を代表する花といえる燕子花が水辺を彩り、秋はまた、紅葉の美しさでも知られています。現在、本庭園は港区の保護樹林に指定されています。休館の間、歩道の段差や幅を改良し、おもだった樹木や石造物にはプレートをつけるなどの整備を行い、散策する方々のために新たな庭園マップをご用意いたします。

緑の中で美の余韻を愉しむカフェ

## NEZUCAFÉ

庭園内には、隈研吾氏デザインによるNEZUCAFÉ（47席）が美術館と同時にオープンします。その場所は、かつて初代根津嘉一郎が蘭を愛でた温室があった場所で、今ものこる大理石の暖炉にそのおかげをとどめています。NEZUCAFÉは、その暖炉を広い店内のスペースにとりこみました。美術鑑賞の合間に、庭園を眺めながらくつろぎの時間をお過ごしいただけますよう、季節のお菓子や飲み物、軽食をご用意いたします。

・営業時間：午前10時～午後4時30分（ラストオーダー午後4時）

## 国宝・重要文化財は私立美術館でトップクラス

### 沿革と収蔵作品

当館は昭和16年(1941)、初代根津嘉一郎の遺志によって南青山に開館いたしました。収蔵品の分野は、絵画・書蹟・彫刻・陶磁・漆工・染織・考古など多岐にわたり、国宝7件、重要文化財87件、重要美術品96件を含む、約7千件の日本・東洋の古美術品によって構成されています。この指定品の数は、根津美術館の所蔵品が、その量と質の両面において私立美術館のトップクラスにあることを示しています。コレクションのひとつの柱である茶道具は、初代根津嘉一郎が青山と号し、茶の湯にいそしむようになったことを契機として収集されました。重要文化財の唐物茶入「松屋肩衝」(中国・南宋時代)や、「柴田」の銘で知られる重要文化財「青井戸茶碗」(韓国・朝鮮時代)などの茶道具の名品はもとより、牧谿筆の国宝「漁村夕照図」(中国・南宋時代)などの宋元の絵画や書蹟も、茶席の掛物として集められたものです。収蔵するコレクションの質の高さは、国内外の研究者や美術愛好家に高い評価を受けています。

#### [収蔵作品件数]

指定品 国宝7件、重要文化財87件、重要美術品96件  
総件数 6,889件

#### [収蔵する国宝作品]

根本説一切有部百一羯磨 卷第六	日本・奈良時代
無量義経・観普賢経	日本・平安時代
那智瀧図	日本・鎌倉時代
燕子花図 尾形光琳筆	日本・江戸時代
漁村夕照図 牧谿筆	中国・南宋時代
鶻図 伝李安忠筆	中国・南宋時代
布袋蔣摩訶問答図 因陀羅筆	中国・元時代

## 根津の伝統を現代に継承した人々

### 創業者

根津 嘉一郎 (初代)

根津美術館創業者。江戸時代の万延元年(1860)山梨市生まれ。明治30年(1897)東京へ進出し、明治38年(1905)46歳にして東武鉄道株式会社社長に就任。若い頃から古美術への関心が高く、明治42年(1909)に訪米実業団に加わり、アメリカの美術館を見たことがきっかけとなり、美術館設立という目標にむけて美術品の収集をはじめ。40代終わり頃からは茶の湯に興味を持ち、青山と号する。昭和15年(1940)1月永眠。同年11月、その遺志により港区南青山に財団法人根津美術館を設立。

### 歴代の館長

昭和16(1941)年	11月	三矢 宮松	(元朝鮮総督府警務局長、元皇室林野局長官)
昭和21(1946)年	9月	河西 豊太郎	(事業家・嘯月美術館創業者)
昭和34(1959)年	6月	根津 嘉一郎 [2代目]	(東武鉄道株式会社代表取締役社長)
昭和56(1981)年	12月	菅原 壽雄	(財団法人常盤山文庫理事長)
平成12(2000)年	1月	根津 公一	(株式会社東武百貨店代表取締役社長)